

オープン市場短信 (2013年6月)

2013. 6. 12

◆ 5月のCP市場動向

5月のCP月末残高は、4年ぶりに前月比マイナスとなり、14兆6379億円(4498億円減)であった。一般事業法人では前月比ほぼ横這いとなったが、その他金融で▲1.18%、金融機関分で▲8.77%、ABCPで▲7.61%減少した。一般事法については、4月中の社債発行が多かったことから手元資金が増加し、その為CP発行が伸び悩んだと指摘する向きもある。また金融機関の内、証券会社の資金調達ニーズが大きく後退し、証券会社7社で3058億円の減少となった。

発行レートは、銘柄間格差の縮小が進み(電気機器を除く)、各ターム共に0.10%前後から0.12%台前半での出会いであった。電気機器についても、決算発表以降次第にレートが低下する動きとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.1039%~0.1150% 一般事業法人(a-1格) 0.1040%~0.1350%
その他金融銘柄(a-1格) 0.1040%~0.1400%。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	5月末残高	4月末残高	増減
一般事法	42,571	42,205	366
その他金融	57,864	58,552	▲ 688
金融機関	28,380	31,108	▲ 2,728
(政府系金融	350	440	▲ 90)
(銀行等	12,705	12,285	420)
(証券	15,325	18,383	▲ 3,058)
ABCP	17,564	19,011	▲ 1,447
計	146,379	150,876	▲ 4,497

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

5月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0990% ~ 0.1020%	0.1000% ~ 0.1040%	0.1039% ~ 0.1150%
a-1 (一般事法)	0.1020% ~ 0.2300%	0.1040% ~ 0.1340%	0.1050% ~ 0.1350%
a-1+(リース銘柄)	0.0990% ~ —	— ~ —	— ~ —
a-1 (リース銘柄)	0.1040% ~ —	0.1040% ~ 0.2400%	0.1040% ~ 0.1400%
a-2	0.1190% ~ ケ 0.30%	0.1150% ~ ケ 0.40%	0.1140% ~ ケ 0.50%

《CP買入オペ》

オペは、5月は9日・20・28日と3回実行された。9日のオペでは、応札が1兆1千億円を超えるなど売却ニーズが高く、落札レートは前回より低下したものの、市場予想を上回る水準であった。20・28日のオペでは、月中発行が少なくディーラーの応札玉が減少したことから、落札レートは低下した。月末のオペ残は、1兆8612億円であった。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
5月9日	5月14日	4,000	11,217	3,585	0.105%	0.107%	38.3%
5月20日	5月23日	4,000	7,100	3,815	0.104%	0.107%	23.3%
5月28日	5月31日	4,000	6,870	3,923	0.101%	0.103%	47.2%

《ABC P》

ABC Pは、前月比1447億円の減少となり、1兆7564億円となった。前年同月比では、2410億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は、新規登録等が無かったため494社と変わらず。5月末時点における通算の発行企業数は、首都圏リースが初発行したことから、525社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、5月中も落ち着いて推移(0.009%台後半~0.105%近辺)した。

◆ 6月のCP市場動向

6月中のCP償還額は約3兆1700億円で、前年同月の償還額(約3兆5700億円)を下回っている(除く、金融機関発行CP・ABC P)。

今月の新規発行については、企業の賞与資金手当てなどの資金調達ニーズが生じ、ショートターム物中心の発行案件が増加すると思われる。但し、企業のキャッシュフローは十分にあると指摘されることや四半期決算で残高を調整する動きもあることから、大幅増とはならず、月末残高は15兆円台前半を予想する。

発行レートは、資金余剰が影響していることもあって運用ニーズ旺盛で、一般銘柄の3M物では0.100%台前半～0.12%近辺の出会い。その他金融・リース銘柄(a-1格銘柄)の3M物では、0.100%台半ば～0.12%台半ばでの出会いを予想する。また、最上位格付け銘柄については、0.100%前後での出会いが予想される。

《CP買入オペ》

今月は、6（実施済）・13・25日と計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて実施される予定。6日のオペ結果は応札が6842億円に止まり、積極的に売却をする動きとはならず、予想通り前回オペ落札結果よりも低下となった。次回以降については、現状発行が多くない上に発行レートが弱含みとなっていることから、落札レートは弱含みを予想する。月末オペ残高は、1.8兆円前後を予想する。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは、0.06%台から0.09%台の出会いでの推移が予想され、インターバンクレートは、0.06%～0.08%近辺での推移が予想される。

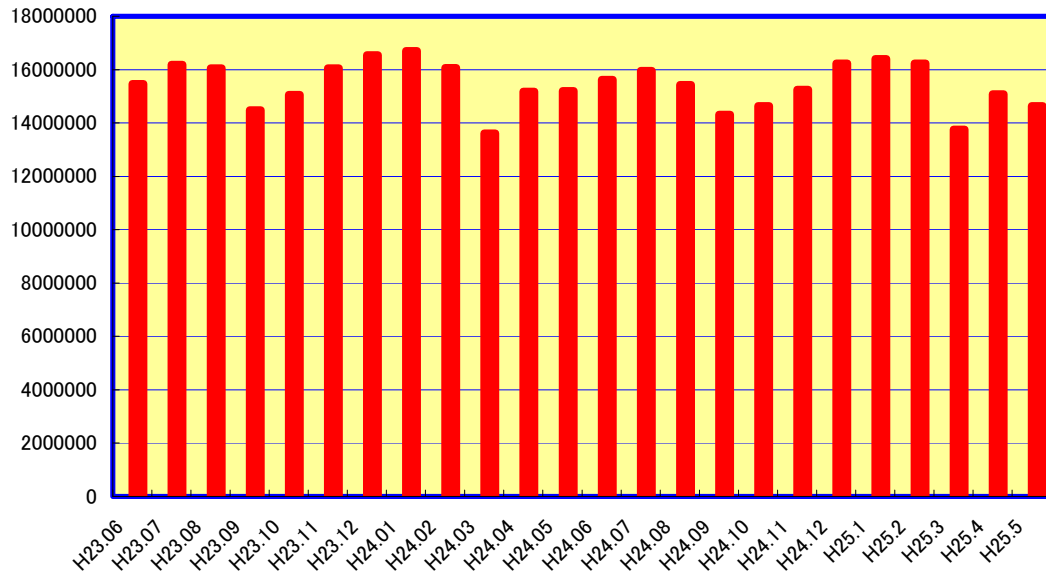
CP現先レートは、他市場に比べるとやや高めであるが、0.090%台半ば～0.100%台前半での出会いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（23年6月～25年5月）

発行登録企業：494社（発行実績あり525社）

（過去2年間の残高を表示）



5 月末発行残高ベスト 20

5月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	5月末残高	4月末残高
1	三菱UFJリース	827,000	807,700
2	三井住友ファイナンス&リース	766,800	763,800
3	東京センチュリーリース	620,300	598,900
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	578,200	589,430
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	三井住友信託銀行	447,500	403,500
7	三菱UFJモルガンスタンレー証券	437,200	531,800
8	JXホールディングス	426,000	444,000
9	新日鐵住金	418,000	330,000
10	大和証券	338,250	372,380
11	アルカディア・ファンディング	331,000	384,540
12	JA三井リース	330,000	330,000
13	興銀リース	329,700	334,000
14	みずほ証券	306,200	320,100
15	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	297,500	309,950
16	芙蓉総合リース	219,700	219,700
17	東 芝	219,000	227,000
18	野村証券	210,500	270,000
19	ホンダファイナンス	201,000	202,000
20	日本証券金融	187,000	193,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会